

数 学 採 点 基 準

【注意】 この採点基準以外に問題がおこったときは、各学校で基準を設けて採点すること。

問題番号	正 答 [例]	採 点 上 の 注 意	配 点
1	(1) 2		各 2 16
	(2) $2a + 9b$		
	(3) $\sqrt{6}$		
	(4) $x = \frac{-5 \pm \sqrt{41}}{2}$		
	(5) 12		
	(6) イ		
	(7) ウ		
	(8) ア		
2	(1) $8\sqrt{5}$		各 3 6
	(2) $\frac{5}{18}$		
3	(1) ア, エ	全部合っているもの だけを正答とする。	3
	(2) 差が4である2つの偶数は、 n を整数とすると、 $2n, 2n + 4$ と表される。 大きい方の偶数の2乗から小さい方の偶数の2乗を引いた数は、 $(2n + 4)^2 - (2n)^2$ $= (4n^2 + 16n + 16) - 4n^2$ $= 16n + 16$ $= 16(n + 1)$ $n + 1$ は整数だから、 $16(n + 1)$ は16の倍数である。 したがって、差が4である2つの偶数について、大きい方の偶数の2乗から小さい方の偶数の2乗を引いた数は、16の倍数である。	内容を正しく捉えて いれば、表現は異なっ ていてもよい。	4

問題番号	正 答 [例]	採 点 上 の 注 意	配 点
4	(1) 0.48		3
	(2) B市の第1四分位数は10℃より大きく、C市の第2四分位数は10℃より小さい。つまり、B市の31日分のデータを小さい順に並べたときに、小さい方から8番目は10℃より大きく、C市の31日分のデータを小さい順に並べたときに、小さい方から16番目は10℃より小さい。したがって、前年の10月において、1日の気温差が10℃未満である日は、B市よりC市の方が多いため、C市はB市より1日の気温差が小さい傾向にある。		4
5	(1) 18		各 3 9
	(2) $y = \frac{2}{3}x^2$		
	(3) $\frac{21}{4}$		
6	$\triangle AEB$ と $\triangle AFC$ において $\angle ABC = \angle ACB$ より、 $\triangle ABC$ は $\angle ABC$ と $\angle ACB$ を底角とする二等辺三角形であるから $AB = AC$① $\widehat{BE} = \widehat{CD}$ であるから $\angle BAE = \angle CAF$② \widehat{AE} に対する円周角は等しいから $\angle ABE = \angle ACF$③ ①, ②, ③より、1組の辺とその両端の角がそれぞれ等しいから $\triangle AEB \equiv \triangle AFC$	内容を正しく捉えて いれば、表現は異なっ ていてもよい。	5